

# 八戸 6月号 レポート

令和元年5月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	5月1日 八戸市市制施行90周年に
(2)	三陸ジオパーク VR動画制作で新体感
(3)	市民大学講座 講師到北京五輪銀メダリストの朝原宣治さん
(4)	青森暮らしサポートセンター2018年度実績 青森県に移住 83人

## 【産業】

記事	概要
(5)	八食センター 全店舗の7割がキャッシュレスに対応
(6)	味の海翁堂 八工大生とコラボした「いちご煮炊き込みご飯」発売
(7)	VISITはちのへ「観光・物産情報サイト」を公開
(8)	三菱製紙 家庭紙商品「ルクレ」発表 “八戸発”の新ブランドに

## 【地域】

記事	概要
(9)	大型客船「飛鳥Ⅱ」6年連続の八戸寄港
(10)	ビブリオバトル八戸で頂点の熊谷さん 全国大会で見事日本一
(11)	蕪島・休憩所周辺 ウミネコ営巣地復活
(12)	八戸みなとまちづくり協議会 外国人の視点で陸奥湊の魅力調査
(13)	三沢のアクションクラブ×八工大の学生 ご当地ヒーローの短編映画製作

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(14)	八戸中央青果 実業団アイスホッケーチームの創部を検討
(15)	第38回八戸うみねこマラソン 5800人が快走
(16)	「浅田真央サクスツアー」開催 ～華麗な演技 ファン魅了～
(17)	八戸に二つ目のアイスホッケー女子チーム誕生
(18)	レスリング全日本ジュニアカデットの部 光星高の川市さん準優勝
(19)	3人制バスケット「八戸ダイム」始動 開幕戦2位に
(20)	絵本作家まつばらのりこさん(八戸市出身)の作品 待望の日本語版発売

【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>5月1日 八戸市市制施行90周年に</b></p> <p>八戸市は5月1日、市制施行90周年を迎えた。節目の本年度は多彩な記念事業を展開し、さらなる発展に向けた契機とする。90周年のキャッチフレーズは「歴史を紡ぎ90年 輝く未来へ 八戸市」。本年度に実施する記念事業は、ワイン産業の振興策を探る「八戸ワインフォーラム」(5月19日)や、外国人による日本語弁論大会(6月1日)、市の歩みを郷土資料で振り返る「記念特別展」(7月13日～8月25日)など。記念式典は6月27日に市公会堂で開催する。</p>
(2)	<p><b>三陸ジオパーク VR動画制作で新体感</b></p> <p>「三陸ジオパーク」への理解を深めてもらおうと、岩手県は沿岸18カ所で撮影した仮想現実(VR)動画を制作した。関係施設などに設置する専用ゴーグルで各ジオサイトを360度見渡せるほか、小型無人機ドローンによる、上空や海側からの風景も体感できる。専用ゴーグルは、蕪島休憩所と種差海岸インフォメーションセンター、市水産科学館マリエント、久慈市の久慈地下水族科学館もぐらんに設置予定で、無料で利用できる。</p>
(3)	<p><b>市民大学講座 講師到北京五輪銀メダリストの朝原宣治さん</b></p> <p>2019年度の八戸市民大学講座が5月15日、市公会堂で開講した。初回は、北京五輪陸上男子400メートルリレー銀メダリストの朝原宣治さんが講師を務めた。現在、「スポーツを通じた健康力の高いまちづくり」活動を推進する朝原さんは、「自分にとっての本質をつかんだ練習を取り入れることが大事」と強調するとともに、詰め掛けた市民525人に、夢を追い続けることの大切さと難しさを説いた。本年度は前後期合わせて18講座を予定している。</p>
(4)	<p><b>青森暮らしサポートセンター 2018年度実績 青森県に移住 83人</b></p> <p>人口減少対策として青森県外から県内への移住を促す「あおり移住・交流推進協議会」は、5月28日、「青森暮らしサポートセンター」(有楽町)の2018年度実績を発表した。来所やイベント参加による相談件数は延べ1069件(190件増)、うち実際に移住を決めたのは49件83人(12件19人増)で、いずれも前年度実績を上回った。移住決定者が最も多かった市町村は、八戸市の19件36人。青森市が7件12人、弘前市が6件10人と続いた。移住理由は、▷地元で暮らしたい▷家族の都合や介護のため▷青森の自然が好きだからーなどが多かった。</p>

【産業】

記事	概要
(5)	<p><b>八食センター 全店舗の7割がキャッシュレスに対応</b></p> <p>八食センターが、代金支払いに現金を用いないキャッシュレス化を進めている。4月からスマートフォン決済サービス「ペイペイ」などが使えるようになり、全64店舗中、7割近い43店舗がキャッシュレスに対応している。また、インターネット通信ができる無料の「Wi-Fi (ワイファイ)」サービスも4月下旬に開始した。観光客向けを中心に買い物時の利便性を高め、インバウンド(訪日外国人旅行)の増加も視野に入れて集客アップにつなげたいとしている。</p>

(6)	<p><b>味の海翁堂 八工大生とコラボした「いちご煮炊き込みご飯」発売</b></p> <p>味の海翁堂（八戸市）は5月16日に、八戸工業大の学生とコラボして開発した新商品「八戸いちご煮の炊き込みご飯」を発売した。デザインは風呂敷をイメージし、食べ終わった後も取っておきたくなるよう、若い女性に人気のレトロポップを取り入れた。商品は、電子レンジで5分間温めると完成する炊き込みご飯で、本格的な味を手軽に味わえるのが特長。販売価格は1080円（税込み）。</p>
(7)	<p><b>VISITはちのへ「観光・物産情報サイト」を公開</b></p> <p>八戸圏域版DMO（観光地域づくり推進法人）「VISIT（ビジット）はちのへ」は5月13日から、一般向けホームページ「観光・物産情報サイト」を公開している。13日から観光情報のみの公開を始め、物産関係は6月以降の公開となる見通し。多言語対応としては、7月以降に英語版サイトを開設する予定だ。八戸圏域を訪れるインバウンド（訪日外国人旅行）の増加を目指し、欧米を中心とした外国人の関心を引きやすい内容やデザインにしたのが特徴。</p>
(8)	<p><b>三菱製紙 家庭紙商品「ルクレ」発表 “八戸発”の新ブランドに</b></p> <p>八戸市に主力工場を置く三菱製紙（東京）は5月29日、家庭紙商品の新ブランド「ルクレ」を発表した。資本・業務提携を結ぶ王子ホールディングスとの共同事業により、三菱製紙八戸工場内に開設した家庭紙製造工場で生産しており、6月に販売開始の予定。古紙などを用いず、新しいパルプから生産するため、上質で柔らかい肌触りが特徴。ティッシュは400枚（200組）と300枚（150組）の2種類を展開。トイレットペーパーはシングル（50メートル巻）とダブル（25メートル巻）を製品化した。“八戸発”のブランドとして東北地方で流通させる。</p>

【地域】

記事	概要
(9)	<p><b>大型客船「飛鳥Ⅱ」 6年連続の八戸寄港</b></p> <p>郵船クルーズの大型客船「飛鳥Ⅱ」が5月8日、八戸港に寄港した。同船が八戸港に寄港するのは昨年10月以来で、6年連続。横浜港を発着する「みちのく・函館 新緑クルーズ」（6～11日）の行程で訪れ、八戸は2番目の寄港地となった。乗船客をおもてなししようと、八戸商業高の吹奏楽部が歓迎の演奏を披露した他、岸壁には八戸圏域8市町村や久慈エリアの特産品などを販売するブースが設けられた。地元の歓迎を受けながら、大勢の乗船客が種差海岸などへ観光に繰り出し、八戸圏域や岩手県北エリアの魅力を体感した。</p>
(10)	<p><b>ビブリオバトル八戸で頂点の熊谷さん 全国大会で見事日本一</b></p> <p>昨年11月に開催された知的書評合戦・第5回「ビブリオバトルin八戸」を制した岩手県立大船渡高2年の熊谷秀人さんが、3月上旬に奈良県で開かれた全国大会で優勝し、日本一の栄冠を手にした。出場した大会は第4回「ビブリオバトル全国大会inいこま」で、全国の地区予選を勝ち抜いた35人が出場。熊谷さんは、演説などの原稿を執筆する「スピーチライター」をテーマにした「本日は、お日柄もよく」について作品の魅力を紹介。説得力のある熱のこもった語り口で見事、全国の頂点に輝いた。</p>

(1 1)	<p><b>蕪島・休憩所周辺 ウミネコ営巣地復活</b></p> <p>全国有数のウミネコの繁殖地である蕪島では、2015年4月に八戸市が参道の入り口付近に休憩所を整備後、施設周辺では環境の変化や気候の影響などで営巣数が激減していた。そのため、地元住民やウミネコの生態を調査している市民団体、鮫観光協会などが見回りを強化。交代で施設周辺を巡回し、外敵の侵入を防ぐなどの地道な保護活動などにより、近年、徐々に営巣数が復活している。2018年は約60羽のひなが巣立ったほか、今年も多くの親鳥が卵を抱えるなど、営巣場所として再び定着してきている。</p>
(1 2)	<p><b>八戸みなとまちづくり協議会 外国人の視点で陸奥湊の魅力調査</b></p> <p>JR陸奥湊駅周辺エリアの活性化に取り組む「八戸みなとまちづくり協議会」は5月17日から24日までの日程で、外国人の視点から地域振興策を探る「インバウンド（訪日外国人旅行）リサーチプロジェクト」を展開した。米国、フランス、カナダ国籍などの外国人に加え、海外経験が長い日本人の計6人が参加し、3泊4日の日程で陸奥湊駅前商店街や八戸酒造周辺、館鼻岸壁朝市などを周遊。インバウンド向けの観光資源の魅力や改善点を調査した。分析結果は外国人観光客の受け入れ態勢の整備に生かし、今後のまちづくりの方向性にも反映させる意向である。</p>
(1 3)	<p><b>三沢のアクションクラブ×八工大の学生 ご当地ヒーローの短編映画製作</b></p> <p>三沢市のアクションクラブ「隼風(はやて)」(柏崎代表)と、八戸工業大の学生で組織する八戸空想科学研究会が、ご当地ヒーローで地域を盛り上げようと奮闘している。柏崎代表原案の東北ご当地ヒーローの短編映画「阿豆流為(あてるい)」の製作を目指しており、5月上旬に館鼻岸壁で行った予告編の撮影では、朝市でにぎわう大勢の買い物客を背景に、切れのあるアクションを披露した。6月中にインターネット動画配信サイト「ユチューブ」で公開予定。代表らは「ご当地ヒーローを広く知ってもらい、地域を元気にしたい」と意気込んでいる。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(1 4)	<p><b>八戸中央青果 実業団アイスホッケーチームの創部を検討</b></p> <p>八戸中央青果が、氷都・八戸の盛り上げに一役買おうと、実業団アイスホッケーチームの創部を検討している。同社は、県アイスホッケー連盟に売り上げの一部を寄付する「アイスホッケーバナナ」を販売するなど、これまでもアイスホッケー振興を支援してきたが、競技関係者から「競技を続ける場が少なくなった」との話を聞き、今回の実業団チーム新設の検討に入った。来年度の社員採用からアイスホッケー経験者の採用を始める予定で、早ければ2020年度シーズンからの本格始動を目指す。</p>
(1 5)	<p><b>第38回八戸うみねこマラソン 5800人が快走</b></p> <p>「走るあなたが主役です」をスローガンに、第38回八戸うみねこマラソン全国大会は5月12日、八戸水産公社前を発着点に行われた。距離、年代、性別で分かれた計21種目に全国25都道府県から5861人がエントリー。今大会では、日本人女性初の五輪メダリストで、八戸市とチェコにゆかりのある故人見絹枝さんにちなんだ「チェコ共和国杯・人見絹枝賞」を新設。ハーフ女子最高タイムを記録した佐藤由貴さん（八戸市）が初代受賞者となった。午前9時の競技スタート時で気温10.1度と肌寒い天候だったが、ランナーは初夏の爽やかな風を一身に浴びながら、新緑の潮騒路を快走した。</p>

(16)	<p><b>「浅田真央サックスツアー」開催 ～華麗な演技 ファン魅了～</b></p> <p>2017年に現役を引退したプロフィギュアスケーターの浅田真央さんが主演する「浅田真央サックスツアー」青森公演が5月11日、テクニカルアイスパーク八戸で開幕した。ジュニア時代から世界トップレベルの演技とスケーティング技術で、日本フィギュア界を席卷してきた浅田真央さんが、「ファンへの感謝」をテーマに、選手時代に各大会で用いたプログラムをメドレーで披露。元フィギュアスケート選手の無良崇人さんや今井遥さんらと共に、華麗なスケーティングやダンス、ジャンプで観客を魅了した。</p>
(17)	<p><b>八戸に二つ目のアイスホッケー女子チーム誕生</b></p> <p>アジアリーグアイスホッケーの東北フリーブレイズが、女子チーム「FREEBLADES LADIES (フリーブレイズ レディース)」を立ち上げた。現在、青森県内の女子アイスホッケーチームは、八戸市を拠点とする「八戸レッズ」のみで、二つ目の女子チームとなる。チームは中学生以上の初心者から、一度競技を離れ、ブランクのある選手まで広く募集する。5月15日から募集を開始し、今夏から活動を始める予定。アジアを舞台に活躍するブレイズが、競技の裾野拡大に向けて新たな挑戦を始める。</p>
(18)	<p><b>レスリング全日本ジュニア カデットの部 光星高の川市さん準優勝</b></p> <p>日本レスリング協会が主催する全国大会「JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニア選手権」(4月27、28日、横浜市)のカデットの部(16、17歳)グレコローマンスタイルで、八戸学院光星高の川市竜之介さん(17)が2位、濱田浩暉さん(17)が3位と、上位入賞を果たした。80キログラム級に出場した川市さんは「ポイントを取られても弱気にならず攻め返した」との言葉通り、粘り強く戦い決勝に進出。決勝は惜しくも敗れたが、2位以内に入り、世界カデット選手権(7月29日～8月4日、ブルガリア)への出場権を手にした。</p>
(19)	<p><b>3人制バスケット「八戸DIME」始動 開幕戦2位に</b></p> <p>3人制バスケットボールのプロリーグ「3x3.EXE PREMIER」(プレミアリーグ)北日本カンファレンスの開幕戦が5月25日、宇都宮市で開かれ、今季参入の八戸DIME(ダイム)が初陣に臨んだ。予選リーグを3チーム中2位で通過し、決勝トーナメント1回戦も勝利して決勝進出。決勝では地元宇都宮のチームに惜敗したが、第1戦にして6チーム中2位と健闘した。メンバーは多くの観衆が見守る中、迫力あるプレーで会場を沸かせた。</p>
(20)	<p><b>絵本作家まつばらのりこさん(八戸市出身)の作品 待望の日本語版発売</b></p> <p>英国で活動する八戸市出身の絵本作家まつばらのりこ(本名・松原典子)さん(42)の作品「ぼっちとぼっち くつしたのおはなし」が2013年に英国で発売後、中国語や韓国語、スペイン語などさまざまな言語に翻訳され、話題を集めている。八戸市尻内町に住んでいた幼い頃、まつばらさんの世話をしてくれた祖母の故佐々木きよのさんとのエピソードがストーリーの基になっている。5月中旬には岩崎書店(東京)から日本語版も発売され、B5変型判、28ページで価格は税込み972円。</p>